

第 3 回専門部会の主な意見（未定稿）

第 3 回朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画専門部会（平成 29 年 10 月 24 日開催）において、公園整備基本計画について審議等を行い、意見をいただいた。

1. 整備基本計画のまとめ方について

- これまでの意見は反映されているが、どのような公園にしていきたいのかという全体的な思想、意思が感じられないため、現状を追認するという姿勢であれば、その原則を明記するなど、計画全体をつらぬく思想が必要である。
- 「整備基本計画は、最終の絵姿を描くものではない」と最初に宣言し、つくりながら考えて、修正していくといった動的な計画にしてもよいのではないか。
- 活動ニーズの展開の部分に行為と空間の在り方が混在しており、現状を強く意識して考えたものになっている。メリハリと打ち出し方を考え、本格的な動線と機能配置を決めていくことが必要である。
- 機能や施設等はわかるが、将来の形や、行為、印象が見えてこない。
- 設計段階に移すために、面積や設備、費用がどの程度必要なのかを考え、時期を考慮して整備の優先順位を付けるほうがよい。
- 計画に対する市民の方に関心をもって整備できるように、例えば 3 年後、5 年後、10 年後の計画を立てて進めることが必要である。
- まずは朝霞の森を中心にスズカケの並木、リトルペンタゴンのエリアを加えて、敷地北側を L 型に整備してはどうか。
- オリンピックのことを考えると、シンボルロードの整備は第 1 期の整備で十分であり、第 2 期として、スズカケの並木から正面園路までの西側のゾーンを整備するといった整備の順番の見直しが必要ではないか。
- 第 1 期、第 2 期の整備内容を示し、それぞれの整備範囲についてクローズアップした絵を入れる。

2. 個別の内容について

①植栽、景観形成

- 新しい植栽を植えるなど、既存の風景を活かすということと新しい風景を活かすという視点が基本計画の中にあってもよい。
- 基地跡地の植生にあわせて花や実の成る木があり名所となる場所があったほうがよい。
- 「北園路に沿って残るスズカケの並木、ヤマザクラの並木の下で散策」と書かれているが、それならば園路の反対側にもヤマザクラを植えた方がよい。

②生物多様性の保全

- エコロジカルなネットワークの観点からは、周辺との繋がりが大切である。基地跡地は一つの拠点であり、パスの一部である。将来的に資源としてエコロジカル・ネットワークの一部になるとよい。
- 生物生息環境としての将来目標として、断面モデルか事例を提示してもらえると議論が進む。

③施設整備

- 遺産を引き継ぐだけでなく、将来的には人が歩く柔らかな感じの道に変えるなど、新しい今の時代にあった園路をつくるべきではないか。
- 「歴史的な遺構の活用」とあるが、具体的にどう活用するのかまで踏み込んだ記述が必要ではないか。
- 土壌汚染を盛土で対処した場合、いたる所に盛土ができるが、一種の負の遺産として残すことも選択肢の一つではないか。
- 市民・関係機関等からの提案・ニーズにある、フットサル、バスケットの記述に対し、導入を考えるのであれば、想定する場所は図示すべきである。
- 当面 10 年間の目標を設定するのはよいが、供給施設の取り出しは考慮しておいたほうがよい。
- 災害時の利用に際して必要な施設、想定される規模なども書いておいたほうがよい。それが第 2 期の整備範囲を説明する際の理由の一つになる。

3. 管理運営に関する主な意見

- 管理運営について意見を伺う組織体に、区域内で事業を展開したいと考える事業者も入ってもらえるとよいかもしれない。
- 民間活力を導入する場所（2箇所）は明記した方が議論が進む。
- 民間収益施設の導入に向けた調査検討は前倒しすべきである。
- 2020年の段階で、仮設でもよいので実験的に店舗を誘致すべきではないか。
- 民間の出店は条件次第である。例えば、市の収入はなし、イニシャルコストの半分以上を市が負担するなどの条件を設定すれば、5年、10年の短期で出店できると思われる。
- マーケティング的な基礎リサーチを行わなければ、議論をしても具体的な話には進まない。